

女子美制作・研究奨励賞達成・進捗報告書

半澤友美

略歴

- 1988 栃木県宇都宮市に生まれる
- 2010 女子美術大学芸術学部立体アート学科卒業
- 2018 平成30年度 ポーラ美術振興財団在外研修員としてアメリカにて研修

【個展】

- 2020 「Note」 MARUEIDO JAPAN / 東京
- 2019 「The Histories of the Self」 ポーラ美術館 アトリウムギャラリー / 箱根
- 2017 「See」 JINEN GALLERY / 東京
- 2016 「grey integument」 ガレリアグラフィカ bis / 東京
- 2015 「溢るる 垂る」 いりや画廊 / 東京
- 2013 「Black Scenery」 画廊るたん / 東京
「White Atmosphere」 プロモ・アルテギャラリー / 東京

【主なグループ展】

- 2020 「ポーラ ミュージアム アネックス展 2020- 真正と発気 -」 ポーラ ミュージアム アネックス / 東京
「AiPHT PLUS」 パークホテル東京 / 東京
「Find Your ART for Christmas - 大切な人への贈り物 -」 MARUEIDO JAPAN / 東京
- 2019 「テキスタイルアート・ミニアチュール」東京、兵庫、(17) 東京、韓国、福岡、(15) 東京、金沢
- 2018 「新進芸術家選抜展 FAUSS」 アーツ千代田 3331 メインギャラリー / 東京
- 2017 「Beyond the Generations」 H-art Beat Gallery / 東京
アーティストインレジデンス「南総金谷藝術特区」成果発表会 旅館金泉館 / 千葉
- 2016 新進芸術家育成交流作品展「FINE ART / UNIVERSITY SELECTION 2016-2017」茨城県つくば美術館 / 茨城

【受賞 / 助成】

- 2019 第19回女子美制作・研究奨励賞 受賞
- 2018 ポーラ美術振興財団 平成30年度 若手芸術家の在外研修助成
- 2016 新進芸術家育成交流作品展「FINE ART / UNIVERSITY SELECTION 2016-2017」優秀賞 受賞
- 2012,14 新制作 SD 部 新作家賞 受賞

【アーティスト・イン・レジデンス】

- 2017 南総金谷藝術特区 / 千葉

【ワークショップ】

- 2019 紙をつくるワークショップ ポーラ美術館 / 神奈川

【アートフェア】

- 2020 「artTNZ produced by AFT with APCA」 / 東京

1. 制作・研究の動機・目的

私の制作は紙の成り立ちを動機とし、自己のあり様について思考することを目的としています。紙というのは繊維の絡まりからなる物体であり、私にとって物質性の強い存在です。紙は繊維を絡ませ成形することは全世界で共通していますが、その原料、方法は場所、作り手によって随分と異なります。紙の成り立ちの中にそれぞれの独自性、つまり個性が含まれるのです。そういった背景を含む素材感を利用して、造形することで、自己について思考する、あるいは思考できる時間を作りだすことを目的としています。

自己とは、自己だけでは形成されず、知覚することができません。他者や、社会、環境、過去、現在などとのあいだ、関係性によって、その一端を感じることができるのではないのでしょうか。ただそれは永遠に揺れ動き、固着されるものではありません。直にものに触れることで感じられる個人的素材感は、その時の自己に焦点を合わせる為の手段の一つです。

紙の成り立ちをもって、それぞれが持つ自己を見つめるほとんどが焦点のあわない状態ながらも一瞬でも焦点をあわせることができる、あるいは、揺れ動くままでもその存在を感じ取れる体験を作り出すことを目標としています。

2. 制作・研究活動

● 2020年2月

グループ展「ポーラ ミュージアム アネックス展 2020 ー真正と発気ー」に参加。本展のために新作4点を制作、展示。

・「ポーラ ミュージアム アネックス展」について

「ポーラミュージアム アネックス展」は、公益財団法人ポーラ美術振興財団が、1996年以來実地している「若手芸術家の在外研究助成」を受けた芸術家の研究成果を披露する展覧会であり、今回で16回展を迎える。2月21日から4月12日までの期間を前後期に分け、計6名が出展。展示にはそれぞれテーマがあり、筆者が参加している前期が〈真正と発気〉、後期は〈透過と抵抗〉と題されている。

展覧会のタイトルとして「真正と発気」という言葉が付されているが、このイメージによって出品作が選ばれているわけではなく、監修者が3名のアーティストに出品依頼を行い、作品はいうまでもなく各アーティストの創意に委ねられている。「真正と発気」という言葉に使われている「真正」とは authenticity を訳したものであり、「発気」は aura からとられている。

アートの中には、素材の真正性を隠してしまうものもある。17世紀オランダの静物画などはその一例であろう。それらとは反対に、素材の真正が構造を経て発気に至るまでその真正性の存在を明らかに留めているアートもある。この両義性もまた魅力である。

ー 展覧会監修者 木島俊介（公益財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館 館長）

・展覧会詳細

会期：2020年2月20日（金）~3月15日（日）11:00~20:00

会場：ポーラミュージアムアネックス

会期中無休、入場無料

参加アーティスト：(前期) 太田泰友、寺嶋綾香、半澤友美

イベント：2月20日 18:30～20:00 レセプション、寺嶋綾香パフォーマンス、アーティストトーク

ポーラミュージアム アネックス サイト：

<https://www.po-holdings.co.jp/m-annex/>

・筆者の展示について

本展では新作の壁面作品4点を展示した。木島俊介氏に展覧会会場内を3分割され、広く壁面がとれる空間を割り振られたため、壁面作品のみの展示にした。過去壁面の作品のみで展示をした経験がなかったため、新たな挑戦であった。2018年在外研修前に構想していた作品「Untitled」、2019年に開催した個展「The Histories of the Self」、新作「Note」シリーズを出品することで、在外研修の研究成果の披露という展覧会コンセプトを意識した展示とした。2018年の在外研修でアメリカに行き、日本に戻ってきてまた日本という土地と自己について見直すといった筆者自身の制作コンセプトの偏移を考える場になった。

・成果

新型コロナウイルス COVID-19 の感染拡大の状況を鑑みて、3月2日から臨時休館となった。会期が急速短縮となり10日間のみとなってしまった。短い会期ながらも来場者は多く、手応えを感じる展示であった。今年開催する個展のコンセプトを固めることができた展覧会になった。

その後、残会期を9月26日から10月11日に開催することに決定した。



展示風景 ©POLA MUSEUM ANNEX

POLA MUSEUM ANNEX EXHIBITION 2020

— 真正と発気 —



ポーラミュージアム アネックス展 2020

2020.2.21 fri – 3.15 sun

会期中無休 11:00 - 20:00 (入場は19:30まで) 入場無料

Open everyday during the exhibition period
11:00 - 20:00 (Entrance until 19:30) Free admission

太田泰友
寺嶋綾香
半澤友美

OTA Yasutomo

TERAJIMA Ayaka

HANZAWA Tomomi

公益財団法人
ポーラ美術振興財団
POLA ART FOUNDATION

「ポーラ ミュージアム アネックス展」は、公益財団法人ポーラ美術振興財団が、1996年以来実施している「若手芸術家の在外研究助成」を受けられた方々の研究成果をご披露いただく展覧会であり、今回で16回展を迎える。展覧会のタイトルとして「真正と発気」という言葉が付されているが、このイメージによって出品作が選ばれているわけではなく、監修者が3名のアーティストに出品依頼を行い、作品はいうまでもなく各アーティストの創意に委ねられている。「真正と発気」という言葉に使われている「真正」とは authenticity を訳したものであり、「発気」は aura からとられている。アートの中には、素材の真正性を隠してしまうものもある。17世紀オランダの静物画などはその一例であろう。それらとは反対に、素材の真正が構造を経て発気に至るまでその真正性の存在を明らかに留めているアートもある。この両義性もまた魅力である。

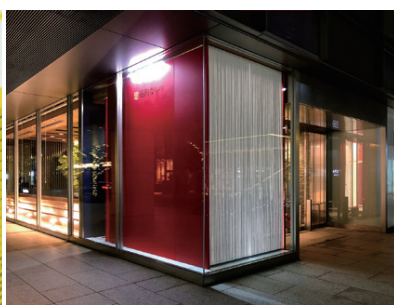
展覧会監修者 木島俊介(公益財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館 館長)

The Pola Museum Annex Exhibitions have been organized since 1996 by the Pola Art Foundation for the purpose of showcasing the works produced by recipients of “Grants for Overseas Study by Young Artists.” This will be the 16th exhibition in the series. The exhibition is titled “Authenticity and Aura,” but it is not merely a collection of works selected on the basis of this theme. Rather, the curator engaged three artists for the exhibition, giving each of them free reign with their works and ideas. In some works of art the “authenticity” of the materials is latent. One example is the still life paintings of the Netherlands from the 17th century. In contrast, there is also art in which the authenticity of the materials is obviously preserved throughout the structure and even in the “aura” of the work. This ambiguity is also a source of charm.

Exhibition supervisor, Shunsuke Kijima (Director, Pola Art Foundation Pola Art Museum)



1



2

OTA Yasutomo

1. Frucht I 2017年 紙、ボール紙、麻糸
Frucht I 2017 Paper, cardboard, hemp yarn
12×12×13cm
2. Book Para-Site 2019年 紙、木
Book Para-Site 2019 Paper, wood
285×270×170cm



3



4

TERAJIMA Ayaka

3. der Topf 2019年 リサイクル粘土
der Topf 2019 Recycled clay
47×47×60cm
4. Clay Stage (パフォーマンス30分)
2018年 粘土、コラージュサウンド
Clay Stage (Performance 30 min.) 2018
Clay, collage sound
200×200×20cm



5



6

HANZAWA Tomomi

5. 無題 2017年 蕨、樺、漆喰、顔料
Untitled 2017
Wisteria, mulberry, plaster, pigment
43×43×10cm
6. Same rooms 2018年 樺、麻、金属、顔料
Same rooms 2018
Mulberry, hemp, metal, pigment
h150cm

太田 泰友

OTA Yasutomo

<https://www.ota-bookarts.jp>

1988年 兵庫県生まれ、山梨県育ち
 2011年 首都大学東京 システムデザイン学部 インダストリアルアートコース 卒業
 2013年 首都大学東京大学院 システムデザイン研究科 インダストリアルアート学域 博士前期課程修了
 2015年 ブルグ・ゲービヒンシュタイン芸術大学 ブックアート科 研究課程修了
 2016年 公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員(ドイツ)
 2017年 ブルグ・ゲービヒンシュタイン芸術大学 マイスターシューラー号取得(教授 Sabine Golde)

1988 Born in Hyogo, raised in Yamanashi
 2011 Tokyo Metropolitan University, Faculty of Systems Design, Department of Industrial Art, Bachelor
 2013 Tokyo Metropolitan University, Graduate Scholl of Systems Design, Department of Industrial Art, M. A.
 2015 Burg Giebichenstein University of Art and Design Halle, Postgraduate course, Book Art
 2016 Pola Art Foundation fellowship (Germany)
 2017 Burg Giebichenstein University of Art and Design Halle, Meisterschüler, Book Art (Prof. Sabine Golde)

—主な展覧会—

2015年 企画展「単位展—あれくらい、これくらい、どれくらい?」21_21 DESIGN SIGHT(東京)
 企画展「Freundschaften und tiefe Einblick in die Zeit」Museum Fürstenfeldbruck
 (フュルステンフェルトブルック、ドイツ)
 2016年 企画展「BEST OF: Sabine Golde als Künstlerin als Professorin an der Burg Giebichenstein
 Kunsthochschule Halle」Galerie DRUCK und BUCH(ウィーン、オーストリア)
 個展「太田泰友ブックアート展」伊勢丹 新宿店 アートギャラリー(東京)
 企画展「Bücher tanzen aus der Reihe」Basel University Library(バーゼル、スイス)
 2017年 企画展「美術館の本棚」足利市立美術館(橋本)
 企画展「Neue Seiten—Zugänge zur Künstlerbücher」Herzog August Bibliothek
 (ヴォルフエンビュッテル、ドイツ)
 2018年 企画展「深化する本のカタチ」Nibunnoギャラリー(東京)
 企画展「Freud on the Couch」The Center for Book Arts(ニューヨーク、アメリカ)
 2019年 個展「背を見て背つ」八戸ブックセンター(青森)
 瀬戸内国際芸術祭 2019(香川)
 Brillia ART AWARD 2019 入選作品展示(東京)

Selected Exhibitions

2015 "Measuring— This much, That much, How much?" 21_21 DESIGN SIGHT (Tokyo)
 "Freundschaften und tiefe Einblick in die Zeit" Museum Fürstenfeldbruck
 (Fürstenfeldbruck, Germany)
 2016 "BEST OF: Sabine Golde als Künstlerin als Professorin an der Burg Giebichenstein Kunsthochschule
 Halle" Galerie DRUCK und BUCH (Vienna, Austria)
 Solo exhibition "Yasutomo Ota's Book Arts" Art gallery ISETAN Shinjuku Store (Tokyo)
 "Bücher tanzen aus der Reihe" Basel University Library (Basel, Switzerland)
 2017 "Bookshelf of Museums" Ashikaga Museum of Art (Tochigi)
 "Neue Seiten—Zugänge zur Künstlerbücher" Herzog August Library (Wolfenbüttel, Germany)
 2018 "The Book" Nibunno Gallery (Tokyo)
 "Freud on the Couch" The Center for Book Arts (New York City, USA)
 2019 Solo exhibition "Looking at Back of Books" Hachinohe Book Center (Aomori)
 ART SETOUCHI 2019 (Kagawa)
 Brillia ART AWARD 2019 (Tokyo)

寺嶋 綾香

TERAJIMA Ayaka

<https://ayakaterajima.myportfolio.com>

1987年 愛知県生まれ
 2012年 東京藝術大学美術学部工芸科陶芸専攻 卒業
 2014年 東京藝術大学大学院美術研究科陶芸専攻修士課程 修了
 2012-2016年 NORITAKA TATEHANA アシスタントデザイナー 勤務
 2016-2017年 ミュンヘン美術院 陶芸クラスProf. Markus Karstießに師事
 2017年-現在 ミュンヘン美術院 彫刻クラスProf. Nicole Wermersに師事
 2017年 公益財団法人野村財団 美術部門2017年度下期奨学助成(ドイツ)
 2018年 公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員(ドイツ)

1987 Born in Aichi
 2012 B.F.A. in Ceramic course, Department of Crafts, Tokyo University of the Arts
 2014 M.F.A. in Ceramic course, Department of Crafts, Tokyo University of the Arts
 2012-2016 Assistant Designer at NORITAKA TATEHANA
 2016-2017 Ceramic and Glass class, Prof. Markus Karstieß, Academy of Fine Arts Munich
 2017-Current Sculpture class, Prof. Nicole Wermers, Academy of Fine Arts Munich
 2017 Nomura Foundation Arts and Culture Grant (Germany)
 2018 Pola Art Foundation fellowship (Germany)

—主な展覧会—

2013年 「KOUGEI to ART」Gallery Show wood(東京)
 2014年 「SHOW Cabinet : NORITAKA TATEHANA」SHOW studio(イギリス/ロンドン)
 2016年 「Danner Preis exhibition "God keep me from ever completing anything"」
 ミュンヘン美術院(ミュンヘン/ドイツ)
 2017年 「Jahres Ausstellung 2017」ミュンヘン美術院(ミュンヘン/ドイツ)
 2018年 個展「Der kleine blaue Garten(小さな青い庭)」Sansaro art Box(ミュンヘン/ドイツ)
 「Jahres Ausstellung 2018」ミュンヘン美術院(ミュンヘン/ドイツ)
 2019年 「Jahres Ausstellung 2019」ミュンヘン美術院(ミュンヘン/ドイツ)

Selected Exhibitions

2013 "KOUGEI to ART" Gallery Share wood (Tokyo, Japan)
 2014 "SHOW Cabinet : NORITAKA TATEHANA" SHOW studio (London, UK)
 2016 "God keep me from ever completing anything" Academy of Fine Arts Munich (Munich, Germany)
 2017 "Annual exhibition 2018" Academy of Fine Arts Munich (Munich, Germany)
 2018 Solo exhibition "Der kleine blaue Garten (The small blue garden)"
 Sansaro art box (Munich, Germany)
 "Annual exhibition 2018" Academy of Fine Arts Munich (Munich, Germany)
 2019 "Annual exhibition 2019" Academy of Fine Arts Munich (Munich, Germany)

半澤 友美

HANZAWA Tomomi

<http://www.hanzawatomomi.com/>

1988年 栃木県生まれ
 2010年 女子美術大学芸術学部立体アート学科卒業
 2018年 公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員(アメリカ、メキシコ、カナダ)

1988 Born in Tochigi, Japan
 2010 BFA, Sculpture Course, Joshibi University of art and design, Japan
 2018 Pola Art Foundation fellowship (USA, Mexico, Canada)

—主な展覧会・受賞—

2013年 「Black Scenery」画廊たん / 東京
 「White Atmosphere」アロモ・アルテギャラリー / 東京
 2014年 「新制作展」国立新美術館 / 東京、京都市美術館 / 京都 (12-)
 新制作 SD 部 新作家賞 受賞(12,14)
 2015年 個展「溢るる 垂る」いりや画廊 / 東京
 2016年 個展「grey integument」ギャラリーオカbis / 東京
 新進芸術家育成交流作品展「FINE ART/UNIVERSITY SELECTION 2016-2017」
 茨城県つくば美術館 / 茨城 優秀賞 受賞
 2017年 個展「See」JINEN GALLERY / 東京
 「Beyond the Generations」H-art Beat Gallery / 東京
 アーティストレジデンス「南総金谷藝術特区」成果発表会 旅館金泉館 / 千葉
 2018年 「新進芸術家選抜展 FAUSS」アーツ千代田3331 メインギャラリー / 東京
 2019年 個展「The Histories of the Self」ポーラ美術館 アトリウムギャラリー / 箱根
 「テキストアート・ミニチュール」 / 東京、兵庫、(17)東京、韓国、福岡、(15)東京、金沢
 第19回女子美術制作・研究奨励賞 受賞

Selected Exhibitions & Grants

2013 Black scenery, Gallery RUTAN, Tokyo
 White Atmosphere, Galleria Promo-arte, Tokyo
 2014 Shinsesaku Exhibition, The National Art Center, Tokyo,
 Kyoto Municipal Museum of Art, Kyoto (12-)
 New Artist Prize in the Space Design Section(12,14)
 2015 Afururu Taru, GALLERY IRIYA, Tokyo
 2016 Grey integument, Galleria grafica bis, Tokyo
 FINE ART / UNIVERSITY SELECTION 2016-2017, Tsukuba Museum of Art, Ibaraki,
 Excellent Work Award
 2017 See, JINEN GALLERY, Tokyo
 Beyond the Generations, H-art Beat Gallery, Tokyo
 KANAYA Artist in residence program NANSO KANAYA GEIJUTSU TOKKU, Chiba
 2018 Upcoming Artist Selection FAUSS, 3331 Arts Chiyoda, Tokyo
 2019 The Histories of the Self, Atrium Gallery, Pola Museum of Art, Kanagawa, Japan
 Textile Art Miniatures, Tokyo, Hyogo (17)Tokyo / Seoul / Fukuoka (15) Tokyo / Kanazawa



公益財団法人 ポーラ美術振興財団は、1996(平成8)年5月、ポーラ・オルビスグループ各社の協力のもと、当時のグループオーナーであった故鈴木常司(1930-2000)が私財を投じ、美と文化に貢献することを目的に設立され、その後2010(平成22)年7月1日に公益財団法人に移行いたしました。

ポーラ・オルビスグループは、1929(昭和4)年の創業以来、人の美、人の粧いを探求し、常に最高の美を求めて努力を重ねてまいりました。「人は内面の美しさが大切で、外面がいかにも美麗であっても内面美がなければその価値はない」ということを、自らの仕事の大切な心構えとして、芸術、とりわけ美術に深い関心を示した鈴木常司は、心の豊かさによる内面からの美しさを一般に広く提供するため、当財団の設立に至りました。

当財団は、美術分野のすそ野を広げ、より多くの方々に美術に親しんでいただくために、若手芸術家の在外研修、美術館職員の調査研究、および美術に関する国際交流の各分野に対する助成事業を実施し、鈴木常司およびポーラ・オルビスグループが収集した美術作品を展示・公開する美術館を開館いたしました。

助成事業と美術館事業という公益性の高い二つの文化事業を実施、継続することによって、日本の文化の向上、発展に寄与していきたいと思っております。

The Pola Art Foundation was established in May 1996 by private funding from Suzuki Tsuneshi (1930-2000), then owner of the Pola Orbis Group with the cooperation of the individual Pola Orbis Group companies. The Foundation's aim is to contribute to art and culture.

Since its establishment in 1929, the Pola Orbis Group have worked for human beauty and human adornment, putting their greatest effort into achieving the highest forms of beauty. Suzuki Tsuneshi firmly believed that "internal beauty is important, and no matter how great the external beauty, if it is not backed by internal beauty, it is worthless." Thus Suzuki was renowned for his deep respect for the arts as an important aspect of his life work. He established the Pola Art Foundation in order to present beauty from the interior, enriched by the heart's greatness, to as many people as possible.

This Foundation works to spread the field of the arts so that more people can become familiar with art. Its main activities are the support of young artists, research by museum staff members, and support of activities related to international exchange in the field of art. In addition to these funding activities, the Foundation also opened the Pola Museum of Art to conserve and display the art works acquired by Suzuki and the Pola Orbis Group.

Through the actualization and continuance of these two important cultural endeavors, funding subsidies and art museum operation, the Foundation seeks to contribute to the improvement and development of culture in Japan.

後期展のお知らせ

ポーラ ミュージアム アネックス展 2020 ー 透過と抵抗 ー

2020年3月18日(水) - 4月12日(日)

会期中無休 入場無料

参加アーティスト：青木美歌・林恵理・中村愛子



Wonder 2017年 ガラス 13×12×42 cm photo Sai

青木美歌 AOKI Mika

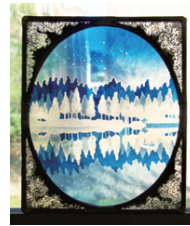
- 1981年 東京都生まれ
- 2006年 武蔵野美術大学 工芸工業デザイン科ガラス専攻卒業
- 2013年 文化庁新進芸術家海外研修制度研修員(イギリス)
- 2015年 Royal College of Art Ceramics and Glass コース 修士課程修了
- 2017年 公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員(アイスランド)
- 2019年 Myndlistaskólinn í Reykjavík Ceramics コース卒業



Glastopia 2019年 ガラス

林恵理 HAYASHI Eri

- 1990年 鳥取県生まれ
- 2012年 京都精華大学芸術学部造形学科洋画コース卒業
- 2018年 公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員(ドイツ)
- 2019年 プルグ・ゲービヒェンシュタイン美術大学芸術学部絵画学科 イメージ・空間・オブジェ・ガラスコース ディプロマ号取得



Foret bleue 2019年 スタンドガラス 25×20.8 cm

中村愛子 NAKAMURA Aiko

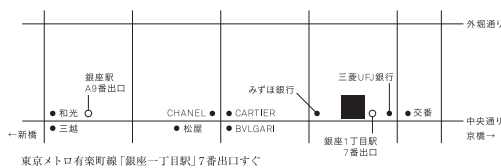
- 1991年 東京都生まれ
- 2010年 三菱商事アート・ゲート・プログラム奨励生
- 2012年 公益財団法人日本交通文化協会 国際龍富士美術賞 第33期奨励生
- 2013年 東京藝術大学 芸術学部 絵画専攻油画科 卒業
- 2016年 東京藝術大学大学院 美術研究科 壁画第2研究室 修了
- 2017年 スタンドガラスアトリエマツダ研修生(フランス)
- 2018年 公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員(フランス)
- フランス国立高等工芸美術学校 スタンドガラス科 留学
- 2019年 パリガラス高等工芸美術学校 スタンドガラス専攻 ガラス描画科 在学中

ポーラ ミュージアム アネックス展 2020 ー 真正と発気 ー

POLA MUSEUM ANNEX EXHIBITION 2020

2020.2.21 fri - 3.15 sun 会期中無休 11:00 - 20:00(入場は19:30まで) 入場無料

Open everyday during the exhibition period 11:00 - 20:00 (Entrance until 19:30) Free admission



POLA MUSEUM ANNEX

ポーラ ミュージアム アネックス
〒104-0061 東京都中央区銀座 1-7-7 POLA 銀座ビル 3 階
お問い合わせ：03-5777-8600 (ハローダイヤル)
POLA MUSEUM ANNEX
POLA Ginza Building 3F 1-7-7 Ginza, Chuo-ku, Tokyo 104-0061
www.po-holdings.co.jp/pm-annex/

主催：公益財団法人ポーラ美術振興財団
協力：シャンパーニュポメリー
Organizer: Pola Art Foundation
Support: Champagne Pommery

展覧会フライヤー

- 2020年2月

イベント「AiPHT PLUS」に参加。パークホテル東京のエレベーターホールにて展示。

- ・「AiPHT PLUS」について

2020年3月開催の現代美術のホテル型アートフェア「ART in PARK HOTEL TOKYO 2020」開催に先立ち、フェア出展アーティストの作品をパークホテル25階ロビーフロア、31階アーティストフロアにて展示、紹介するプログラム。

- ・プログラム詳細

会期：2020年2月17日（月）～3月21日（土）11:00-20:00

会場：パークホテル東京25階、31階

入場無料

参加アーティスト：厚地朋子、内田涼、キム・ドウハ、倉崎稜希、小池一馬、近藤大祐、鈴木淳夫、高島進、大黒貴之、永瀬武志、西村陽平、半澤友美、保坂毅、堀康史、三沢厚彦、森綾乃、ヤマガミユキヒロ、若杉真魅

協力：TEZUKAYAMA GALLERY、橘画廊、KAZE ART PLANNING、DMOARTS、COHJU contemporary art、AIN SOPH DISPATCH、画廊香月、MARUEIDO JAPAN、みうらじろうギャラリー、双ギャラリー、ジルダールギャラリー、西村画廊、ギャラリー・パルク [グランマーブル]、TOMOHIKO YOSHINO GALLERY

運営：一般社団法人日本現代美術振興協会

ART in PARK HOTEL TOKYO 2020 サイト：

<https://www.aipht.artosaka.jp/>

- ・筆者の展示について

パークホテル東京31階エレベーターホールにてインスタレーション「The Histories of the Self」を展示した。海外からの宿泊客が多いホテルのエレベーターホールでの展示ということで、手漉き紙と柿渋の強さと魅力を前面に見せ、エレベーターを出た瞬間に目前に赤と柿渋色が広がるような展示にした。

日本と自己の関係性をホテル内で感じられることを目標とした。

- ・成果

新型コロナウイルス COVID-19 の感染拡大の状況を鑑みて、開催予定であった「ART in PARK HOTEL TOKYO 2020」は中止、宿泊者数、イベント動員数も減少してしまった。

初めて公共施設で1か月という期間の展示であったため、会期中、作品が壁から剥がれてしまうという問題があった。展示方法については今後考える必要があると感じた。



展示風景

● 2020年9月

再開催となったグループ展「ポーラ ミュージアム アネックス展 2020 ー真正と発気ー」に参加。新作9点を展示。(現在開催中)

・「ポーラ ミュージアム アネックス展 2020 ー真正と発気ー」について

3月の臨時休館に伴い、会期半ばで終了してしまったポーラミュージアムアネックス展 2020 前期の残会期を再開催することになった。

スケジュールの都合上、参加者全員2月の展示とは一部異なる作品を展示。

・展覧会詳細

会期：2020年9月26日(土)~10月11日(日) 11:00~20:00

会場：ポーラミュージアムアネックス

会期中無休、入場無料、事前予約制

参加アーティスト：(前期) 太田泰友、寺嶋綾香、半澤友美

ポーラミュージアム アネックスサイト：

<https://www.po-holdings.co.jp/m-annex/>

・筆者の展示について

本展では新作の壁面作品9点(h985xw785mmxd60mm 9点)を展示した。2月に展示した「The Histories of the Self」シリーズのみで展示を構成した。

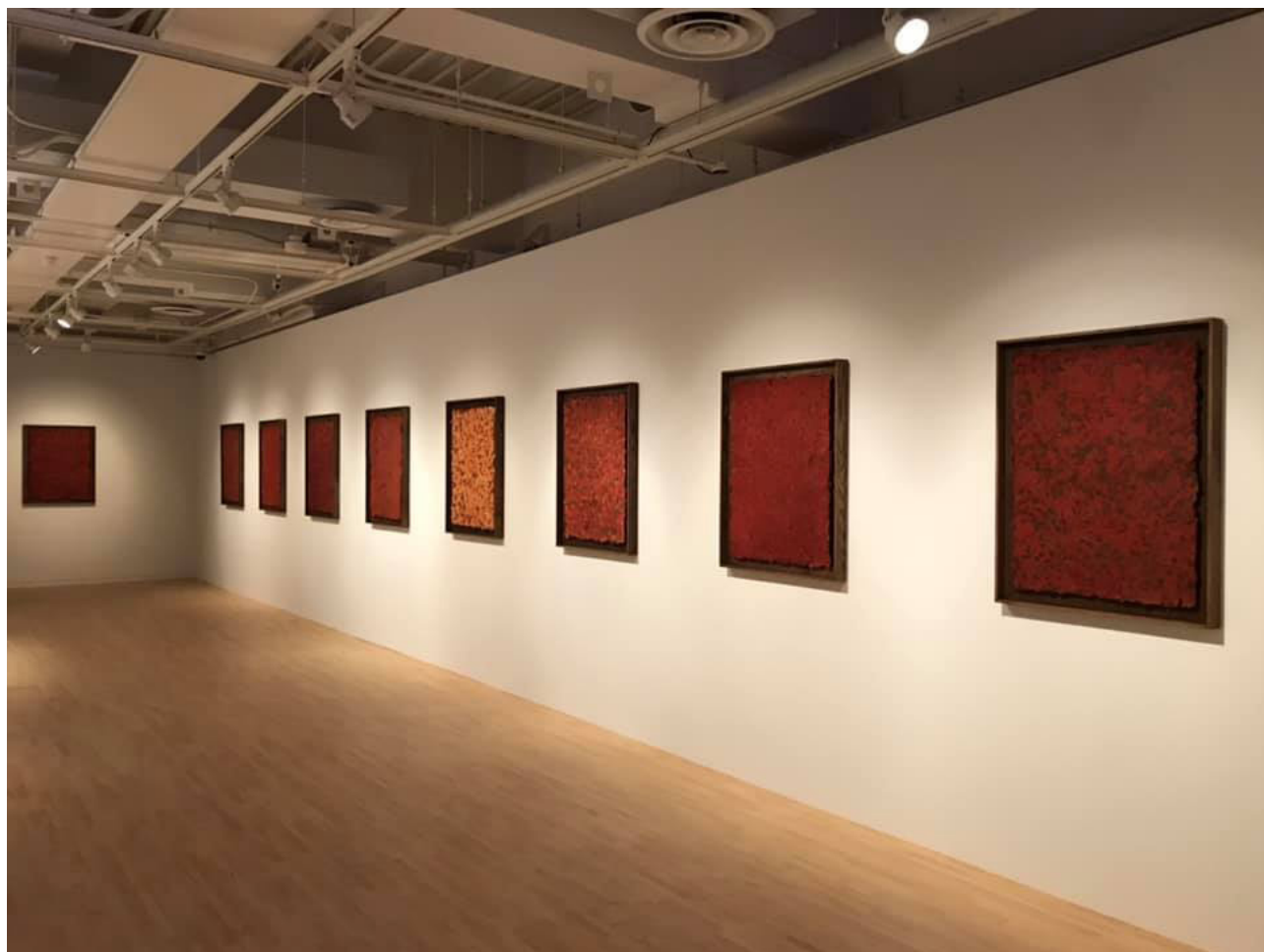
このシリーズは、2019年にポーラ美術館で展示したインスタレーション「The Histories of the Self」と同タイトルであるが、10枚の手漉き紙を奥から柿渋のグラデーションになるように重ね、箱に入れることで、時間の流れを作品の目の前に立つことで感じることができる作品である。インスタレーションの展示では鑑賞時に隣り合う紙や周囲の環境の干渉を含めた上で自己を形成する時間軸を思考させる作品であるが、本展で展示した作品は、1作品の正面に鑑賞者が立って、集中して自己について向き合うことができる展示を目指した。2月の展示の時と比較すると、シリーズを揃えて展示し、ライティングを暗めに設定することで空間自体をみても集中しやすい展示にできた。

・成果

新型コロナによって予約制であったが、たくさんの人に見に来ていただくことが出来た。2月の展示と展示内容と異なっていたため、2月に見た方でも再度いらしてくださる方もいたようである。

The Histories of the Self シリーズに統一したことにより、作品の目標としていた、1つの作品と個人を対峙させるということについて強調することが出来た気がした。

さらに、この作品については鑑賞者にも分かりやすく紙自体にコンセプトを内包させ、作品として昇華することが出来た作品といえると思う。今後の制作に大変役に立つ展示であった。



展示風景



The Histories of the Self #5

2020

木材パルプ、染料、柿渋、亜麻仁油

h985xw785mmd60mm

● 2020年10月

MARUEIDO JAPAN（東京）にて個展「Note」を開催。新旧作約30点を出品。

・個展「Note」について

東京、赤坂にある、モダンアートとコンポラリーアートを展開するアートギャラリー MARUEIDO JAPAN による企画展示。

繊維が空間を持ちながら絡まることで物質になる、という紙の特性を利用し、異素材（籐、金属 他）と楮、木材パルプ（紙の原料）を用いて半立体、立体作品を制作する。

金網に紙の繊維を絡ませ、その間で漆喰と土性の絵具により着色を施して制作する「Note」シリーズを中心に展示を行う。

・展覧会詳細

会期：2020年10月2日（金）～10月22日（木）12:00-17:00

会場：MARUEIDO JAPAN

定休日：日・月・祝日

アポイントメント制

MARUEIDO JAPAN サイト：

<http://marueidojapan.com/>

この度、MARUEIDO JAPAN では半澤友美「Note」を開催いたします。

半澤友美は、紙の成り立ちに着目し独自の造形作品を創り出しています。植物繊維の絡まりからなる紙は、その原料を幾重にも重ねると強固な物体となります。半澤は日本の紙漉（かみすき）の技法を応用し立体作品を制作してきました。昨年、箱根のポーラ美術館アトリウムギャラリーでの大掛かりなインスタレーション「The Histories of the Self」では、会場に何百枚の連作を展示し大変注目を集めました。その展示でも見られたように、半澤は紙と自己に向き合い続け、その都度自己を顧みる記録として、まるでノートを取るかのように制作を続けています。今展覧会タイトルにもなった「Note」のシリーズは、金網に幾重にも紙の繊維を絡ませ積み重ねられた作品です。金網の力を寄せつけない金属的な強さと、紙の柔らかさを同時に併せ持っています。時間と記録が集積された作品たちは、会場で佇み現代の碑のように見た者に何かを問い掛けて来ます。是非この機会に会場で体感していただければ、嬉しく存じます。

— MARUEIDO JAPAN

造形作家の半澤友美（1988 -）は、紙の原料となる植物繊維を自在に操り、2次元のないし3次元的な独自の造形物を創り出す。

たとえば、2018年に発表した《Some Rooms》(2018)は、楮と麻の繊維を金網に絡ませた高さ1.5メートル、幅3メートルの屏風状の作品であるが、繊維の痕跡が顕わとなったその構造体の存在感は展示空間において際立つものの、周囲の環境と相互に作用しながら、穏やかに共生するかのようであった。一方、2019年に箱根のポーラ美術館で発表した《The Histories of the Self》と題されたシリーズは、おもに赤や赤紫に染めた紙料（紙漉きの原料）を調理用スポイトで平面上に点々と垂らし、それを幾層も重ねたものに圧をかけて一枚の矩形のシートに仕上げたものである。300枚におよぶ有機的な平面作品を、床や壁面に並べて取り付けた壮大なインスタ

レーションは、コンクリートや大理石、ガラスを主材とする無機質な建築空間との調和を生み出すこととなった。

さて、現在、半澤が取り組んでいるのは、紙の繊維を菱形の金網に絡ませて作る矩形の半立体作品である。金網に規則的に凹凸をつけるとそこに空隙が生まれ、金属に紙の繊維を絡ませることで徐々にその空隙はハニカムの孔（正六角形というよりはむしろ中空円筒状）の様相を呈する。繊維の量を増やせば増やすほど無作為的で複雑なテクスチャーが形成され、さらに漆喰と土性の絵具を効果的に施すことによって、硬軟相俟った独特の視覚効果が生み出される。半澤はこのような特徴的な半立体オブジェとともに、それを何層にも重ねることによって濃密な立体的な作品（立方体オブジェ）を創り出すことにも挑戦している。

半澤はいかなる形態の作品を創ろうとも、最も重要視していることは各作品における紙の独自性である。半澤はそれを「個性」と呼び、また作品そのものを「自己」と呼ぶ。一般的に自己は様々な要素（生まれ育った場所や家族、友人など）との関係性で成り立つように、半澤の作品もまた繊維の積み重なりや繊維どうしの繋がり、時としてそれらを物理的に支える物質（金属など）との関係性によって成り立つ。さらに作品は、それを取り巻く環境へと作用を及ぼし、また及ぼされるのである。半澤は自身の作品を通して、見る者との関係性を構築することを希求し、見る者からの反作用に期待を寄せている。

— ポーラ美術館学芸員 / 内呂博之

・展示、作品について

金網に木材パルプを絡ませ、その途中でペイントを施す新作 Note シリーズを中心に展示を構成。紙になる途中に土性顔料と鉛筆によってペイントを施すことで、紙自体に記録を内包させ、時間と記録を積み重ねた物体にした。自己の記録の集積から自己を見つめる、確認するという目的のもと制作した。同シリーズながら、作品によって視点に差をつけることで（正面から見る事ができる壁面の作品と、表裏、または側面を見ることが出来る置き作品）積み重ねた時間への対峙方法を広げることが出来る展示構成をめざした。

・成果

新型コロナの影響により、予約制をとった展示だったため、通りすがりでという方はなかなかいなかったが、ポーラミュージアム アネックスと同時開催とうことで、両展示とも見にいらして下さる方が多く、展覧会ごとに異なるシリーズを見せることが出来たため大変良い機会であった。新型コロナの影響もあり、インターネット上での情報開示が多くなる現在の中、物質そのものへの価値観が再確認できたような気がする展示であった。現在の社会や世情に対して素材、紙、彫刻というものをどのように関わらせていくか、見せていくか、価値づけていくかを考えなくてはいけないというのが今後の課題であると感じた。



展示風景 © 加藤健



上)note/one day #1 2020

h985xw785mmd60mm

木材パルプ、楮、顔料、漆喰、金網

左) 備忘録 2020

h315xw315xd420mm

木材パルプ、楮、顔料、漆喰、金網



Note HANZAWA Tomomi
2020.10.02 FRI - 10.22 THU

Note HANZAWA Tomomi
2020.10.02 FRI - 10.22 THU



*本展は、原則アポイントメント制となります。
お越しになる際には、お電話・メールにて
事前のご連絡をお願いいたします。

半澤友美 HANZAWA Tomomi

1988年生まれ。2010年女子美術大学立体アート学科卒業。東京都在住。
平成30年度ポーラ美術振興財団在外研修員としてアメリカ、メキシコ、カナダにて研修。
手漉き紙や紙の原料である植物繊維を利用した、彫刻やインスタレーションを制作する。
繊維を絡ませ成形する紙の特性や、土地によって異なる紙の成り立ちなどから、自己や
周囲の成り立ちについて考える。「半澤友美 The Histories of the Self」(ポーラ美術
館 アトリウムギャラリー、2019)、「ポーラ ミュージアム アネックス展 2020- 真正と
発光-」(ポーラ ミュージアム アネックス、東京)「AIPHT PLUS」(パークホテル東京、
東京)など個展、グループ展を多数開催。
【作家ウェブサイト】<http://www.hanzawatomomi.com/>

MARUEIDO JAPAN

〒107-0052
東京都港区赤坂 2-23-1
アークヒルズフロントタワー 1F
開廊時間 / 12:00 - 17:00
定休日 / 日・月・祝日

Tel : 03-5797-7040
Fax : 03-5797-7045
E-mail: info@marueidojapan.com
www.marueidojapan.com



「Note」2020 木材パルプ、糖、顔料、漆喰

3. 結び

賞を頂いた後というのは、アメリカから帰国、ポーラ美術館で個展と大きな出来事の後であり、今後の制作活動についてよく考えなければならない時期でした。

私は女子美術大学卒業後、紙による造形をずっと行っていましたが、一時、ある出来事によりアイデンティティクライシスに悩まされ、アメリカにて外側から自己について、アイデンティティについて考えてきました。その後、以前から扱っていた紙による造形の中にどのように自己を入れ込むか、あるいは紙による造形の中にどのように自己を見るかということについて考え始めました。

2019年のポーラ美術館での個展ではインスタレーションを行い、紙の成り立ちから自己について考えるという方向を進み出しましたが、賞を頂いた後はギャラリーや公共施設での展示、アートフェアへの出品等する機会を得た為、インスタレーションではなく、空間に任せすぎず1作品の中で紙の成り立ちと自己はの思考を想起させる必要がありました。特に新型コロナウイルス COVID-19による影響で、体験型の展示を開催するのは大変難しい状況になりました。そんな中で、技術を含め新しい作品について思考、実験することが出来たため、今後作家としてどのような活動ができるか幅を広げることが出来た気がしています。

今後の課題としては、予定していた各地の手漉き紙の調査が新型コロナウイルス COVID-19により出来なかった為、落ち着き次第調査に赴きたいと考えています。他にもさまざまな場所での場所の固有性を利用した展示や、場所にとらわれず1作品で密度を感じさせる作品づくり、両方の活動をもって、作家として今後活動していきたいと考えています。そして、新型コロナウイルス COVID-19後、インターネット上で作品発表の機会が増えましたが、現代美術の中で、手漉き紙、手工業、彫刻の独自の価値を高める為にも、インターネットを利用しつつも、実際に体験することの魅力、物質の力というのを考えさせる作品を作れるよう、努めていきたいと考えています。